

[ライブ・サーティ]

Live30

<http://www.omichikai.or.jp>

VOL.

217

2016年
7月-8月



CLOSE UP

専門職や研究者が日頃の研究・診療・教育の成果を発表

第7回日本ニューロリハビリテーション学会学術集会

OMICHI ACADEMY

第25回 日本有病者歯科医療学会総会・学術大会
回復期リハビリテーション病棟協会第27回研究大会in沖縄

OMICHI SCRAMBLE

福岡法人総看護部長が大阪府看護協会会長表彰受賞
森之宮病院が大動脈瘤の実力病院として『日本経済新聞』に掲載
『リハビリナース』に記事掲載

INFORMATION

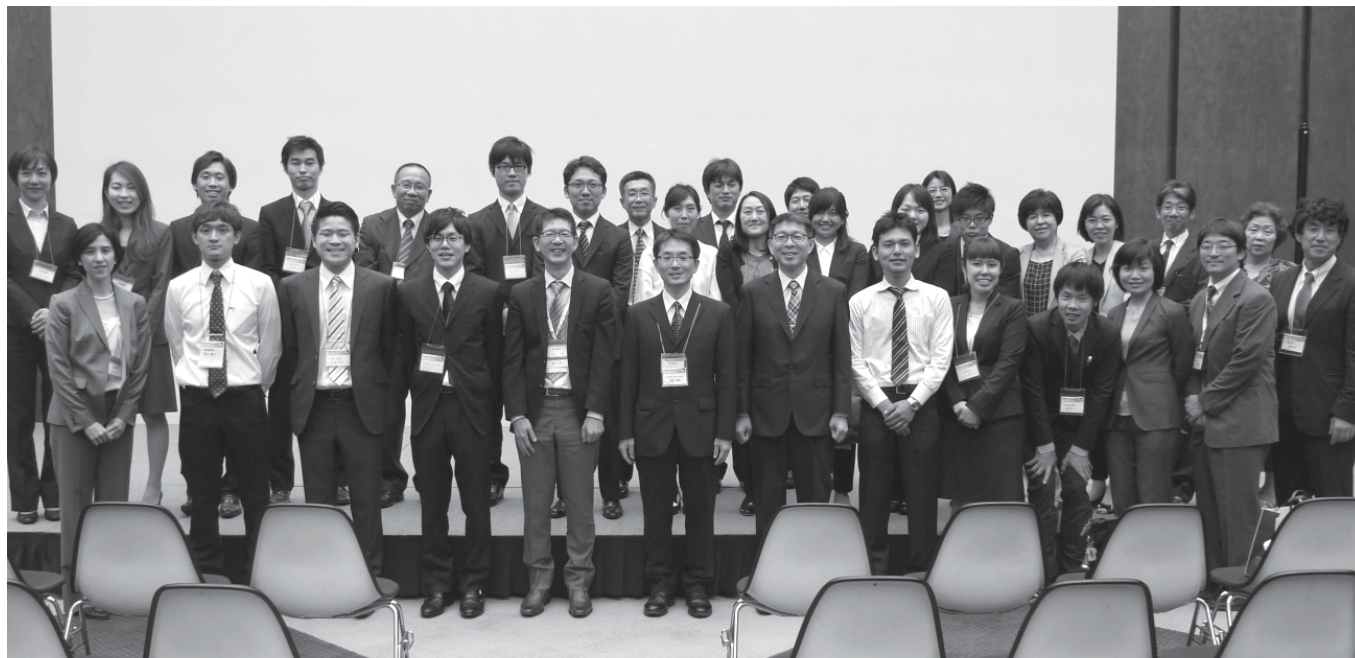
帝国ホテルクリニック「20周年記念キャンペーン」



最優秀賞
「Live30」
雑誌「Live30」に掲載において
最も優秀であったこと表彰、
日本経済新聞、
リハビリナースに掲載
日本経済新聞

専門職や研究者が日頃の研究・診療・教育の成果を発表

第7回 日本ニューロリハビリテーション学会学術集会



大会を支えた大道会の職員と関係者の記念写真



大会長の森之宮病院
宮井院長代理

平成28年5月21日(土)、神戸国際会議場にて、「第7回日本ニューロリハビリテーション学会学術集会」が開催されました。今回は同学会についてご報告します。

http://www.omichikai.or.jp/morino-miya_h/department/neuro_rihabiri/
#jsnmr2016

大会長の森之宮病院 宮井院長代理による挨拶

本学会学術集会は、年に一度、ニューロリハビリテーションに携わるリハビリテーション医、神経内科医、脳外科医、整形外科医、療法士、看護師と脳科学の研究者が一堂に会し、日頃の研究・診療・教育の成果を発表するとともに、ニューロリハビリテーションに関する最新の知識と情報を交換・発信する場です。

今回の学会は、「ニューロリハビリテーションにおける基礎から臨床への橋渡し」をテーマに、多くの臨床医、研究者、専門職が参加されました。第7回の大会長を務めた森之宮病院宮井院長代理は、開会の挨拶の中で、今年の特徴として「第57回日本神経学会学術集会との共同開催となり、これを機に神経内科医の方々に日本ニューロリハビリテーション学会の存在や意義も広く知ってもらおう」、「基礎

と臨床の研究成果のさらなる融合」の2つをあげ、「これまで以上に多彩で活発な意見交換がされることを期待しています」と述べました。

学術集会の成果

森之宮病院神経リハビリテーション
研究部部长 服部憲明

学術集会の成功には、内容の学術的な充実と多くの人に参加してもらうことが重要です。今回は、宮井大会長の「神経学会との同時開催」、「基礎と臨床の橋渡しをテーマにする」という構想を、大道会の多くのスタッフ、運営事務局と一緒に、講演者やシンポジストの方々、協賛企業様のご協力を頂きながら実現させていく過程に関わりました。当日、用意していた抄録集が足りなくなるアクシデントもありましたが、過去の集会の倍以上の規模の盛会で終えることができました。改めて、関係者、参加者の皆さんにお礼申し上げます。

主催大学・施設から積極的な発表があることも、その学会の趣旨に沿った活動を普段からどれくらい行っているか、という指標として認知されます。今回は、リハ部の皆さんの協力も得て、当院が関係する発表が全演題数の1割を占めることができました。発表した人からは、議論が盛り上がりつつあった、参加者のコメントが参考になった等の感想が寄せられました。自分達で計画、遂行し、がんばって発表にこぎつけ、共通の関心を持つ院外の人々と交流し、見聞を広めると

いう、研究の楽しさを感じてもらえたのは、もう一つの今後につながる成果だと思います。

荒井部長による教育講演

森之宮病院小児神経科部長・荒井医師の教育講演「脳性麻痺治療の新たな潮流-EBMに基づく集中リハと日常療育-」では、日本の周産期医療の急激な進歩によって、脳性麻痺の病態は複雑化していることが指摘され、日本と欧米の療育方法が紹介されました。現在、日本の療育システムにある利点を生かしながら、欧米の新しい治療手段と病態評価とEBMに基づくニューロリハとを小児領域にいかに入導入するか課題だと説明がありました。



講演する荒井部長

その他、大道会から口演やポスター発表など(9演題)、多くの職員が参加しました。

学会を終えて

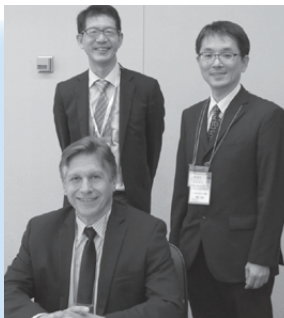
森之宮病院院長代理

宮井 一郎

今回の学術集会では、「ニューロリハビリテーションにおける基礎から臨床への

橋渡し」という基礎研究者から臨床家まで幅広くアピールできるテーマを設定しました。さらにリハビリテーションによって脳の可塑性が発揮されて機能が回復するという証拠を、神経科学的な立場から明らかにしたRandy Nudo博士をはじめとする国内外の著名な研究者の講演、シンポジウムを企画しました。幸い、私達の意図は的中し、従来の2倍以上の531名の参加者を得て、会場は早朝から最終セッションの夕方まで熱気に包まれました。事後にも学術レベルが非常に高い内容と評価を頂きました。2000年から神経リハビリテーション研究部の研究活動で培ってきた、内外の研究者ネットワークとの関わりが花開いたものと考えています。今後も私達が世界をリードする研究成果を出していけるよう努力する所存です。

最後に服部実行委員長、前田事務委員長、奥田秘書をはじめとする大道会の実行委員会のメンバーや当日お手伝い頂いた職員の皆さんに感謝します。



宮井院長代理と服部部長(右)、Nudo博士の記念撮影

第7回 ニューロリハビリテーション 学会学術集会 大道会発表者(プログラム・抄録集より抜粋)

	演題	演者名
口演	脳卒中片麻痺患者の麻痺側上肢運動に対する介入方法の違いが脳・筋活動に与える影響 -機能的MRI・表面筋電図の同時計測による検討-	神尾 昭宏、服部 憲明、宮井 一郎
	感覚運動野の脳波位相同期は脳卒中後の上肢運動機能を反映する	河野 悌司、服部 憲明、畠中 めぐみ、宇野 裕 ^{*1} 、北城 圭一 ^{*1} 、矢倉 一、藤本 宏明、宮井 一郎
	半球間の大域的脳波位相同期は脳卒中後の日常生活能力と関係する	宇野 裕 ^{*1} 、服部 憲明、河野 悌司、畠中 めぐみ、宮井 一郎、北城 圭一 ^{*1}
	脳卒中半側空間無視病態とα波周波数との関連	岡崎 由香、服部 憲明、河野 悌司、宇野 裕 ^{*1} 、畠中 めぐみ、宮井 一郎、北城 圭一 ^{*1}
	回復期病棟における転倒関連要因の検討	田邊 憲二、神尾 昭宏、平松 佑一、尾形 友理、榎尾 晋、服部 憲明、宮井 一郎
	注意障害を含めた前頭葉機能障害は、近赤外分光法を用いたニューロフィードバック(NIRS-NF)の治療効果に影響するのか?	藤本 宏明、三原 雅史 ^{*2} 、服部 憲明、畠中 めぐみ、矢倉 一、河野 悌司、平松 佑一、望月 秀樹 ^{*2} 、宮井 一郎
	IVES・自主練習を早期より取り入れた事で麻痺側手指の随意性向上し復帰した一症例	小谷 真以、神尾 昭宏、服部 憲明、畠中 めぐみ
教育講演	脳性麻痺治療の新たな潮流 -EBMに基づく集中リハと日常療育-	荒井 洋
ポスター口演	回復期リハ病棟入院患者の高次脳機能評価 -認知行動アセスメントによる評価の評価者間差の検討-	清水 健、服部 憲明、田中 恵子、三浦 教一、小野 千晶、小久保 香江、畠中 めぐみ、宮井 一郎

※1 理化学研究所・脳科学総合研究センター BSI-トヨタ連携センター・脳リズム情報処理連携ユニット

※2 大阪大学大学院医学研究科 神経内科学

発表報告

第25回日本有病者歯科 医療学会総会・学術大会



ボバース記念病院
歯科診療部部長
口腔外科部長
藤井 亮介

**病院歯科と一般歯科医院の
連携システムの強化が重要**
日程：平成28年3月4日・5日
場所：タワーホール船堀

3月4日・5日に東京都で開催され
た第25回日本有病者歯科医療学会総
会・学術大会に参加し、「ビスフォスフ
オネート関連下顎骨髄炎に放線菌
感染を伴った一例」という演題で口演
発表をしました。本学会では、全身疾
患を持つ有病者の歯科治療や抗血栓
療法を行っている患者さんの外科処
置、ビスフォスフオネート製剤を使用
中の患者さんの外科処置等、私達が日
常の臨床でよく経験し、時に苦慮する
多くのことについて議論がなされ、毎
回、大変勉強になります。

最近の学会自体の方針の一つに、よ
り安全な治療を提供できるような各
地域ごとの病院歯科と一般歯科医院
の連携システムの強化があります。個人
にとっても気になっていきます。大学病
院や病院歯科では、有病者の歯科治療に
ついてガイドライン等が整ってきて
おり、エビデンスに基づく治療が行わ
れています。一方で超高齢化社会を迎
え、一昔前に比べ一般歯科医院におい
ても来院患者の有病率が増えてきて

いますが、各歯科医院で対応は様々
というのが現状です。そこで、その対応
について各地域の核となる病院歯科
等が、受け入れや勉強会等による啓蒙
を行っているという方針です。当院
でも、近隣歯科医院からの紹介患者を
受け入れ、歯科治療や外科処置を行っ
ており地域医療に少しは貢献できて
いると思いますが、小さな勉強会等に
参加すると、連携の仕方自体が分か
らないため困っている歯科医師も多い
と感じます。今後は学会の方針も見据
えてもう少しできることを増やせ
たらと考えています。

発表報告

回復期リハビリテーション 病棟協会 第27回研究大会 in 沖縄

日程：平成28年3月4日・5日
場所：沖縄コンベンションセンター



森之宮病院
リハビリテーション部
理学療法科
中口 卓也

トイレ時の一連動作による 転倒が低減できるかを検討した

「回復期リハビリテーション病棟協
会 第27回研究大会 in 沖縄」に参加し、
トイレ一連動作に関する転倒につい
て検討し発表しました。今回の調査で
はFIM(機能的自立度評価表)から、
トイレ一連動作における転倒を予測

することは困難でしたが、転倒要素に
着目すると復路、夜勤帯に多く生じて
いることが判明しました。特にトイレ
一連動作自立例、家族介助例での転倒
は9件中5件が復路(往路1件、下衣
操作時3件)と復路において多く生じ
ており、全て入院後4週以内に生じて
いることが判明しました。これは、麻
痺側方向への移乗となりやすいこと
と、トイレ動作という目的が完遂され
注意力が低下したためと考えられま
した。今後は麻痺側方向への移乗を強
化することと、動作指導時に復路につ
いての注意点を重点的に伝えること
で転倒が低減できるかを検討してい
く必要があると考えられました。

本大会は多職種が集まる大会であ
り、今回の発表に対してトイレ動作の自
立にするタイミングや転倒時の状況
等、質問を多く頂いて多職種との密な
ディスカッションを行うことができ、
より転倒対策に対する考え方を深め
ることができました。



ポスター発表をする中口科員



森之宮病院看護部
4階西病棟
井上 千恵子

自己研鑽を重ね、多職種に 信頼されることが大切と学んだ

シンポジウムでは多職種チームの
中での看護師の役割について発表さ
れていました。回復期リハビリでは、
患者さんが「その人らしい」生活を再
構築するために、患者さんご家族を
中心にして多職種がチームとなり、密
接に連携して支援することが重要で
す。具体的な情報提供、生活の場の訓
練を生かすための支援、代弁者とい
う立場で患者さんの思いに寄り添うこ
と、意思決定のための支援等を行い、
専門職としての自己研鑽を重ね、多職
種に信頼される人であることをめざ

することが大切だと学びました。

私自身、実際の業務の中でこうしたことが不足していたと気付かされ、自分の看護を見直すきっかけとなりました。今後は、多職種の専門性を理解し尊重しつつ、自分とは違う視点を持つていることを認め合うことを大切に、目標達成のために看護師として役割を果たしていきたいと強く感じました。

示説発表では、「車椅子使用患者への安全対策管理の検討」携帯ピクトグラムの導入」というテーマで発表しました。これは独自で作成した携帯ピクトグラムを活用し、安全対策管理ができるかを調査したもので、多種職の意見を基に作成した携帯ピクトグラムは、多種職の情報共有ツールとして業務に活用できることが分かりました。課題や改善点はありますが、患者さんの環境や症状、安静度等が反映された安全管理ができるように取り組んでいきたいと思っています。

参加報告 回復期リハビリテーション 病棟協会 第27回 研究大会 in 沖縄

日程：平成28年3月4日、5日
場所：沖縄コンベンションセンター



ボパリス記念病院
リハビリテーション部
作業療法科主任
末宗 梓

当院での回復期リハ病棟における 多職種協働のあり方を考える きっかけとなった

沖縄で開催された回復期リハビリテーション病棟協会研究大会に参加しました。沖縄におけるリハビリテーション関連の全国大会としては、2001年のリハビリテーション・ケア合同研究大会以来15年ぶりの開催で、今大会も全国から大勢の関係者が参加していました。メインテーマは「回復期リハビリテーション」原点に立脚しつつ、更なる進化を」とし、まだまだ進化途中であるリハビリテーションの時期であるという考えから前回の愛媛大会のテーマを引き継いだものでした。

今大会では当院の回復期リハビリテーション病棟委員会の医師も参加しており、「当院の入院時訪問指導における課題と展望」を報告しました。驚いたことに、「外泊・訪問指導」のジャンルの報告の中で、入院時訪問指導に関する発表は11報告の内8つもあり、回復期リハビリテーション病棟の制度が始まって15年が経過した今も、まだまだ手探りの中で行っている取り組みである印象を受け、自分自身も学ばなければいけないという思いに駆られました。

私は今大会に参加するのは初めてで、他病院がどのような内容の報告をされるのか楽しみにしていました。どの報告も興味深い内容でしたが、特に

印象に残っているのは、多職種との協働チームの報告が多いことでした。当院での回復期リハビリテーション病棟における多職種協働のあり方を考えるきっかけとなり、非常に有意義な時間となりました。今後、多職種の中で自分がセラピストとして何をしなければいけないのかを考え、患者さんの為に専門職として自己研鑽に励んでいきたいと実感する良い機会となりました。

参加報告

医療現場で使える！ 離職を予防する管理職 者のための面談手法



在宅事業部
訪問看護ステーション
おおみち統括管理者
安井 学

日々のコミュニケーションが しやすい職場環境作りが重要

日程：平成28年3月25日
場所：田町カンファレンスルーム

今回参加した研修は、職員の離職防止に焦点を絞った面談方法を学習するものでした。研修では様々な対策が講じられましたが、結論としては日々のコミュニケーションが最も重要であるということでした。普段の職場環境として話しやすい環境作りができていることで風土が醸成し、基盤ができていくようです。この基盤の上に、技術論としての「相手と目線を合わせる」等の技法が実践されることで初めて効果が出るということでした。

具体的技法以外にも、理論的な内容もありましたので紹介します。コミュニケーションをとる際のツールとして2つのツールが紹介されました。その一つはマズローの欲求階層説です。対話中、相手はこの説においてどの階層にいるのかを見極め、その欲求とところを満たすことが、円滑なコミュニケーションのコツであるという事です。もう一つは課題解決能力に対する自立度を見極めるというもので、その自立度を下位層から「依存」、「半依存」、「半自立」、「自立」の4段階に分けます。そして、それぞれに対し、積極的ティーチング指示（「依存」段階に対し）、消極的ティーチング助言（「半依存」）、コーチング支持（「半自立」）、非関与自律（「自立」）を用いるとの事でした。しかし、どちらのツールを用いるにしても、個人を全体として「依存レベル」等と捉えるのではなく、個人の抱える課題に着目し、これへの解決能力をどの程度有するかを見極めて対応することが重要であるという事でした。そうでなければ、「この人は全ての事象において『依存レベル』である」という偏見的な捉え方になってしまいます。これでは会社を辞めたくなるのは当然です。皆さんは普段どうですか？過去の私自身の対応を反省しています。



法人全体

福岡法人総看護部長が
大阪府看護協会会長表彰を
受賞しました

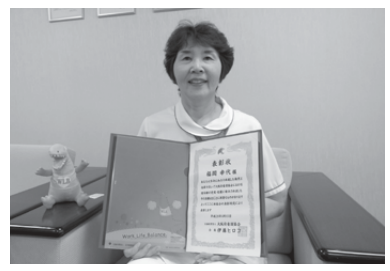
平成28年度公益社団法人大阪府看護協会通常総会が、6月15日に大阪国際交流センターで開催されました。その総会で、福岡法人総看護部長が大阪府看護協会会長表彰を受賞しました。この賞は20年以上の会員歴と看護協会における諸活動の充実と発展に寄与され、その功績を認められた8名に贈られたものです。

福岡法人総看護部長は看護協会が推奨するワーク・ライフ・バランス(WLB)推進事業において、大阪府では当院を含む5施設が参画して、自施設での取り組みを開始されました。その成果は私達看護部にとって、働きやすい職場環境改善に繋がりました。また、WLBの取り組みが看護協会ニュースに取り上げられたり、募集活動をされている方達にも、働きやすい施設としての認識が高まったりしました。労働環境改善に向けて、今も継続的に取り組んでいます。

福岡法人総看護部長はいつでも看護部のことを思い、「何とかしたい」と常にリーダー

シップを發揮し、柔軟な考え方や奇抜なアイデアで、管理職をその気にさせながら皆を引っ張っていかれます。目標に向かってやり遂げられる姿を目の当たりにしながら、いつも「さすが！部長」と感激しています。発想力豊かで前向きな部長に支えられながら、私達看護部は前進していきたいと思います。

(森之宮病院看護部副部長 田中裕子)



表彰状とサウルス君(WLBキャラクター)と一緒に



森之宮病院

森之宮病院が大動脈瘤の実力病院として
『日本経済新聞』に掲載されました

森之宮病院が『日本経済新聞(3月6日付)』の「日経実力病院調査」の大動脈瘤特集に掲載されました。「日経実力病院調査」は、日本経済新聞社が全国約6000病院の治療・診療体制を比較したもので、治療患者数(診療実績)、患者サービスや病院の運営体制、

医療従事者の配置や医療機器等の設備(構造)の3つの視点で、病院選びの際に参考となる情報を、インターネット等の公開データから抽出して分析、評価の高い病院を紹介するものです。

森之宮病院はステントグラフト内挿術の診療実績や医療

機能評価機構での点数が評価され、51の実力病院の一つに選ばれました。

その他、大動脈瘤の症状・原因・治療方法や、医師や施設の専門化や入院短縮の取り組み等も紹介されました。

森之宮病院

今年も看護部新人歓迎会を開催しました

4月28日に今年もKKRホテル大阪にて、看護部実行委員会企画で新人歓迎会を開催しました。KKRホテルでの新人歓迎会は恒例となり、年々グレードアップしています。今年も看護部28名と介護福祉士1名、計29名の新人職員を迎えることができました。

皆さんと一緒に働ける事を心待ちにしているスタッフも多くなります。

持ちで29名の新人が入場しました。福岡看護部長の挨拶・田中副部長の乾杯でスタートし、時間とともに各テーブルから楽しそうな会話や笑顔が多く見られるようになり、新人職員の表情も和んで行きました。恒例の部署紹介では、各部署がユーモアを交えた紹介内容で今年も楽しませてくれました。新人さんの挨拶、また偶然にも歓迎会当日が誕生日・結婚記念日という主任が3名おり、参加者全員でHappy Birthdayを歌うという

新人看護師の集合研修はこれで終了し、また病棟での勤務となります。立ち止まる事もあるかもしれませんが、今日のこの笑顔を忘れずこれから1年頑張ってください。(森之宮病院看護部3階病棟主任 田中万貴)



6階東病棟のみなさん

第8回グリーンライフ・ボバース記念病院歯科診療部合同実践報告会

3月25日、第8回実践報告会を森之宮病院のウッドイホールにて行いました。

毎年、発表者は1年間の取り組みの実施について考え、総括を行い、発表へ向けて準備を整えます。今回は発表演題が6題ありました。食事、在宅復帰、買い物レクリエーション、緊急シヨートステイ等、各部署で様々な取り組みをしました。それらがどのよ



高見医院
高見 成洲 医師

大阪市城東区中浜1-20-7
アベニュー KN101号 06-6963-7661
内科・循環器科・消化器科・アレルギー科

高見院長は、もともと地域医療に関心をお持ちで、地域住民の健康面をサポートしていきたいという思いから、医療法人一裕会 辻クリニックにて院長を務めた後、平成18年10月に高見医院を開院されました。

平成5年、和歌山県立医科大学卒業、平成9年、大阪医科大学医学部大学院卒業、オーストラリアのメルボルン大学に留学。大阪大学医学部附属病院、医誠会病院、阪和第二泉北病院等の勤務医時代の経験により、循環器科・消化器科を含む内科全般を専門とされています。

「まずは患者さんの話をよく聴くことを心がけています。その上で、実際に診療を通して目で見たこと、耳で聴いたこと、手で触れたことを大切に診療を進めています。適切な治療を行って病気を未然に防げた時や早く治った時、適切な専門機関とスムーズに連携が図れた時は嬉しいですね」と話される高見院長。

休日には定期的にジムへ通われながら、ご自身の健康面のケアもされています。

「開院から今年で10年。今後は、患者さんの生活スタイルにあわせた診療を突き詰めて、確立していきたいです」と柔和な笑顔で、患者さん一人ひとりと丁寧に向き合いながら治療に取り組んでおられる姿が印象的でした。
(森之宮病院診療部地域医療連携室 藤野友理香)

うな効果や結果に繋がったのかをそれぞれ発表しました。

様々な視点からの取り組みが発表され、介護だけではなく看護や歯科等、各専門分野の知識を学ぶことができました。各部署が、取り組んだ内容を発表して法人全体に知って頂くとともに、知識や技術の向上に繋がっています。

今年度も様々な取り組みに



発表内容を熱心に聞く職員

挑戦し、次回の実践報告会に向けて各部署ともしっかりと準備を進めていききたいと考えています。これからも実践報告会を通じて、他部署との交流や連携をより深め、ご利用者により良いケアを提供できるような努めていきたいと思えます。
(グリーンライフ事務サービス部地域課支援相談員 中島弘貴)

『リハビリナース』に記事が掲載されました

メディアカ出版が発行する看護師向け雑誌『リハビリナース』(2016年2月号)に森之宮病院看護部の西村はるよ科長の記事が掲載されました。リハビリ看護の実践力アツプをサポートすることをテーマに記事が掲載され、看護部でも4つの回復期リハビリテーション病棟が年間購読している雑誌の一つです。

「生活者としての患者が見える看護記録の書き方 簡単でわかりやすい記録がさっとかける!」というタイトルで特集が組まれ、その中の、「家族とのかかわりについての看護記録の書き方」をテーマに、事例を通して記録の書き方が展開されています。

脳血管疾患により、障がいを受容していく過程で患者さんやご家族とかわる医療者として、患者さんやご家族の思いを支えながら、その思いをチームで共有するために「記録」を書くことの大切さが伝わってきます。「患者さんへのケアは家族を含めたケアであり、家族の変化をとらえた記録を書くことで患者さんを

真に理解することに繋がる」と述べられています。とても大切なことです。当たり前に理解していても、記録に書くことはなかなか難しいことかもしれません。私達は仕事をすすらうので、記録はいつも一緒にあつて、とても悩んだり、時間が必要だったりします。そんな時、西村科長が書いた記事を参考にしてみてもいいかもしれません。ヒントが見つかるかもしれません。

また、今年度は看護記録について教育を担ってくれています。今後の活動に期待しています。
(森之宮病院看護部副部長 田中裕子)



この雑誌に西村科長の記事が掲載されました

「帝国ホテルクリニック」20周年記念キャンペーン」

皆さまのおかげをもちまして、帝国ホテルクリニックは創立20年を迎えることができました。今回、日頃のご愛顧に感謝を込めまして、「20周年記念キャンペーン」を企画いたしました。皆さまの健康管理にお役に立てれば幸いです。



①20周年特別プラン

人間ドック(1泊Sコース) + PET/CT検査→特別価格 200,000円(税抜き)
(通常 252,762円<税抜き>)

多岐にわたる検査項目を含めた人間ドック「1泊Sコース」に、森之宮クリニック(創立10周年)で実施するがんの早期発見に有効な「PET/CT検査」をセットした特別コースです。

※「人間ドック」と「PET/CT検査」は別日程での受診になります。

②1泊コースペアプラン

ペアで1泊コースを受診頂いた方に、特典をご用意しております。

- Sコース受診の場合は5,000円分の帝国ホテルギフト券(1組につき1枚)
- Aコース、またはBコース受診の場合は2日目の昼食券(通常は1日目の夕食のみ)

※詳しくは帝国ホテルクリニックのホームページをご覧ください。
(帝国ホテルクリニック企画広報部 企画広報課 北川博幸)

本部管理部井山部長の長男・井山裕太さんが 囲碁界初の「七冠」を達成しました

本部管理部井山裕部長の長男、井山裕太さんが4月に行われた第54期十段戦の対局で伊田篤史十段を制し、十段のタイトルを獲得、史上初の「七冠」の偉業を達成しました。

棋聖、名人、本因坊、王座、天元、碁聖、十段の7大タイトルの中で、同時タイトル保持記録は五冠が最多でしたが、井山七冠は3年前に史上初の六冠となり、ついに全冠を独占しました。

6月16日、内閣総理大臣官邸にて「囲碁界初の七冠制覇を達成された功」として、安倍晋三内閣総理大臣より顕彰を受けました。また、7月2日にはリッツカールトン大阪にて「七冠達成お祝いの会」が盛大に催され、当法人から大道会長、大道理事長、天野常務理事、中井理事、前田事務局長、吉田部長、峰部長が招待されました。

今後は世界を舞台にした井山七冠

の活躍を大道会職員一同、期待しています。



7月2日に大阪で行われた「七冠達成お祝いの会」にて

森之宮病院開設10周年記念イベント

今年4月に森之宮病院は10周年を迎えることができました。10周年を記念して、地域の方々をお招きする記念イベントを企画しています。体験やセミナー、見学ツアー等をお考え

ています。

今後、特設サイトを開設し、イベント情報を更新していきますので、ぜひご覧ください。

ご寄付を頂きました

西野朋代様(大阪市城東区)、城島清之様(大阪市東淀川区)よりご寄付を頂きました。ありがとうございます。有意義に活用させていただきます。

Live30【ライブ・サーティ】

2016年7-8月号 vol.217 (隔月発行)

編集発行人/社会医療法人大道会

〒536-0023 大阪市城東区東中浜 1-5-1

TEL.06(6962)9621 FAX.06(6963)2233

■大道会

社会医療法人大道会本部

TEL 06(6962)9621

森之宮病院

TEL 06(6969)0111

ポバース記念病院

TEL 06(6962)3131

森之宮クリニック(PET画像診断センター)

TEL 06(6981)9600

帝国ホテルクリニック(人間ドック)

TEL 06(6881)4000

大道クリニック(人工透析)

TEL 06(6961)5151

介護老人保健施設グリーンライフ

TEL 06(6965)0666

訪問看護ステーションおおみち

TEL 06(6967)1123

訪問看護ステーション東成おおみち

TEL 06(6977)8680

ケアプランセンター城東おおみち

TEL 06(6964)5285

ケアプランセンター東成おおみち

TEL 06(4259)5311

レンタルケアおおみち

TEL 06(6967)6250

特別養護老人ホームサンローズオオサカ

TEL 06(6974)7388

東成山学学園(保育園)

TEL 06(6974)7377

●大道会ホームページ

<http://www.omichikai.or.jp>

大道会



編集後記

朝、自宅から最寄駅まで向かう途中、見知らぬ初老の女性が私に会釈されました。以来、その方はすれ違う度に会釈され、今では、私も軽い会釈で応えるようにしています。ただ、どこの誰か未だに分かりません。

幼少期、家の向かいの酒屋のおばちゃんは、道を行き交う人に挨拶していました。かけられる方も悪い気はせず、いずれ商談に発展するビジネスモデルだったのかも…。

私もできれば近隣の方、ましてや職員には挨拶しようと思います。期待は少な目に、損はしないのだから。(在宅事業部主任 新谷佳久)